



1.カーボンニュートラル社会の実現

2.自然資本・生物多様性の促進

3.循環型経済の促進

4.産業育成、イノベーション支援

## 社会課題

未利用資源の活用による循環型バリューチェーンの構築、  
大学発スタートアップ企業のバリューアップ

## ■ 取り組み概要

- ✓ 信州大学を核とするスタートアップエコシステム“IJIE（アイジー）\*”に参画。未利用食品資源を飼料化する信大の技術シーズ\*\*を活用し、県内で廃棄される食品残渣を畜産農家へ安価に供給する流通モデルを構築。廃棄物削減と農家支援を両立。さらに温室効果ガス削減効果をJ-クレジット化し収益循環の実現も企図
- ✓ MUFGは事業設計や外部プレイヤーとのマッチングなど創業前から伴走支援の実施



考えたこと  
MUFGが

- 地元大学に優れた研究成果・技術シーズが存在するものの、事業化・社会実装まで至らないケースが多いという課題に着目、MUFGのスタートアップ支援の知見を活用して課題解決に貢献できないかを検討
- 本件では、食品製造業における廃棄コストや畜産農家における飼料価格高騰、GHG排出削減といった複数の社会課題が混在していたため「金融機関単独ではなく、大学・企業・自治体が連携し、地域内で価値が循環する仕組みを構築すること」が重要だと考え、本取り組みに着手

本取り組みでめざしたのは、単なるスタートアップ支援ではなく地域に根差した循環型経済モデルの実装。具体的には、

- 未利用食品資源（柿皮、廃菌床、ワイン粕等）を活用した新事業の創出
- 飼料化による食品ロス削減と畜産農家のコスト低減
- 温室効果ガス削減効果をJ-クレジット化し、価値として可視化
- 県内完結型のサプライチェーン・経済循環の構築を通じて研究成果が事業となり、地域課題を解決し、地域に還元される好循環を実現



実現すること  
MUFGが

\* 産学官金が連携し地方型スタートアップ創出をめざす枠組み

\*\* 企業や研究機関が保有する独自の技術で、将来的に新しい製品やサービスを生み出す可能性を秘めた「種（Seeds）」

■ 取り組みポイント

- 甲信・北関東の地方大学の特色ある研究成果・技術シーズに基づく起業を地方自治体及び事業化推進機関が連携して支援し、地方型スタートアップ創出をめざすIJIEに参画。信州大学農学部「技術シーズ」\*に着目し、MUFGのグループ各社が有する機能・外部プレーヤーとのネットワークを組み合わせ、県内で廃棄される食品残渣を畜産農家へ安価に供給する流通モデルを構築し、事業化支援。スタートアップ企業のステージ・ニーズに応じた各種サポート及びMUFG内で蓄積している国内外で培った産学連携・スタートアップ企業支援のノウハウを提供することにより拠点やMUFG全体で支援を実施した
- 加えて、サプライチェーン全体で生じるメタン発生削減効果に対し、カーボンクレジット化の支援を行い、顧客企業のカーボンクレジット収益による利益増加を図り、脱炭素化の取り組み義務がある企業ニーズも満たす取り組みを実現

■ MUFGがめざす価値創造



施策・取り組み

- ✓ スタートアップ事業化支援
  - J-クレジット新規方法論確立支援
  - コンソーシアムの構築
  - 事業化に向けた事業・財務戦略の助言
  - 地元大学機関との連携強化

社会的インパクト・達成したい状況

短～中期

- ✓ J-クレジット購入を通じた脱炭素化及び地域貢献の取り組み推進
- ✓ 食品残渣物削減、廃棄コストの削減
- ✓ 新規事業立ち上げによる雇用創出

長期

- ✓ 高品質カーボンクレジットの供給拡大
- ✓ 県内完結型サーキュラーエコノミー展開
- ✓ 持続可能な地方発イノベーションモデル確立による地域経済の活性化

\* 長野県内食品製造工場の廃棄によるコスト要因となっている食品加工副産物（未利用食品資源）の乾燥・飼料加工に関する技術シーズ

## ■ 担い手は語る

Q どのような想いで本取り組みを行いましたか？

A 支援先のスタートアップだけでなく、長野県内に根差した八十二銀行とも連携し、地域全体も含めてWin-Winとなる取り組みとなるよう、トライアンドエラーを重ねながら糸口を探し続けました。

MUFGの付加価値はグローバル視点であると思っていたため、カーボンプレジットは海外での発行が多いという事情も踏まえ、日本認証のカーボンプレジットをグローバルに展開する方法を考え、しっかりとMUFGが伴走支援を行うにはどうすればよいかを常に意識していました。

技術シーズの事業化を全面的に支援するという大きな挑戦でしたが、関係者の皆さんと一緒に、徹底的に取り組むという気持ちで取り組みを行いました。

Q 今後取り組んでいきたいことはありますか？

A 長野営業部にはMUFGブランドを長野県でより浸透させるため、引き続き取り組みを推進していきたいと思っています。

また、本取り組みは通常業務とは少し異なる取り組みでしたが、地域課題に対してMUFGとしてどのように貢献できるかを検討することを通じ、銀行員としてどのようにあるべきか、また、MUFGの一員としてどのように地域課題をとらえる必要があるか等、示唆が多く、自身の成長にもつながったと感じています。本取り組みを他拠点にも展開できるとよいと思っています。



長野営業部の社員